développement de *Pseudobryopsis myura* (Ag.) Berthold (Chlorophcée, Codiale). C.R. Acad. Sc. Paris, Serie D, **278**: 867-870. Rietema, H. (1969) A new type of life-history in *Bryopsis* (Chlorophyceae, Caulerpales). Acta Bot. Neerl. **18**: 615-619. Rietema, H. (1975) Comparative investigations on the life-histories and reproduction of some species in the siphoneous green algal genera *Bryopsis* and *Derbesia*. 1-130, 25 tabs., 26 pls. (Thesis) Tatewaki, M. (1973) Life histories of *Bryopsis plumosa* (Huds.) C. Ag. and *B. maxima* Okam. Bull. Jap. Soc. Phycol., **21**: 125-129. Tatewaki, M. (1977) Life history of *Bryopsis ryukyuensis* Yamada. Bull. Jap. Soc. Phycol., **25**, Suppl. (Mem. Iss. Yamada) : 353-360. Taylor, W.R. (1962) Observations on *Pseudobryopsis* and *Trichosolen* (Chlorophyceae-Bryopsidaceae) in America. Brittonia, **14**: 58-65.

*　　*　　*　　*

前報でわれわれ（高原・千原 1978）は奄美大島産のハネモモドキの形態，分類，有性生殖，接合子の発芽などについて報告した。本報告は前報に引続くもので，無性生殖，遊走子の発芽などについて培養により得た結果を記述した。20°C 長日条件で培養を続けた接合子からの発芽体を 27°C 長日条件に移して約 3 週間経た後に 23°C 短日条件で処理した処，約 2 日後に遊走子の形成を見た。形成は全実的に起り，遊走子は多鞭毛のいわゆる stephanokont zoospore で，倒卵形に近く，後端に尾状突起をもつ。この形状の遊走子は従来全く知られないタイプのものである。遊走子は直立型の発芽を行い，天然に見られるハネモモドキの体に発達する。生活史は有性世代のいわゆるハネモモドキの体と無性世代の匍匐糸状の体の交代によることがわかる。

□日本ベゴニア協会編：**国内に導入されているベゴニア・リスト** A check list of of *Begonia* species and hybrids introduced into Japan. pp. 58, 1978年8月. ベゴニア属は世界に約 2000種を産し，またそれらを親とした交配が多く行われて膨大な数に達している。それらの中から日本に到来したものを網羅したのが本目録である。これらを木立性，根茎性，球根，レックス，センパーフロレンス，冬咲，エラチオールの 8 系統に分ち，夫々を種や品種の ABC 順に配列し，その名の出典，命名者，発表年，原産地，性状，品種では作出者名，発表年，ABC 登録番号を出来るだけ記載したものであって，その調査と取まとめとに数年をかけている。その努力は大変なものであったと思うし，担当された方々のお骨折りをしのぶ。一部600円，送料200円で一般にも分かつという。　　（前川文夫）